

今回の「東大見学会企業大学訪問」で得られたことは今後の私の人生に非常に大きな影響を与えるに違いない。実を言うと、この企画に参加したばかりのときは、「自分は何を得ることができるのだろうか？有意義な経験になるのだろうか？」という不安を感じていたが、その不安は全く的外れなものだった。日本の中心地である東京で受けた刺激は、仙台で体験するものとは比較にならないもので、井の中の蛙であった私を驚かすには十分なものだった。

私たちが最初に訪れた場所は三菱商事である。三菱商事本社のスタッフの方々は皆素晴らしい方々で、おそらく今後二度と聞けないであろう貴重な話を聞かせていただいた。そこでは、まず三菱商事の仕事の紹介を聞かせてもらった。僕の三菱商事のイメージというと、国内最大規模の会社であること、財閥、自動車などの生産、などのものがあつたがそれは三菱商事の一部に過ぎなかった。その他にも様々な部所があり、たくさんの幅広い事業を手がけていることや流通にも大きな影響を及ぼして、我々の生活と密接に関係している企業だということも分かった。また、三菱商事の事業において、堅実に今まで行ってきた事をこつこつと積み重ねているというイメージをしていたが、自分が思っていたよりも新しいことに積極的に挑戦していることが多いと感じたことが印象に残った。

生活産業グループの方の説明では鮭鱒養殖事業について聞くことができた。私はこの事業の名前を見たときかなり驚いた。先ほども述べたが、三菱商事は私たちに密接に関わっている事業をしているとは思っていなかったからだ。

しかし、三菱商事は細かく事業が分かれています。事業によっては皆がよく知っている食品メーカーと提携などをしていて、日常生活に大きく関わっていたのである。

消費者に身近な物を届けるこの事業は、日本だけではなく世界に展開している。鮭は世界中で人気のある食品なのだ。養殖はチリやノルウェーで行い市場の日本や欧米に届ける。このようにこの事業は私たちの生活を支える一つの要因とも言える仕事なのだ。

このような重要な仕事をするためには海外との取引が日常茶飯事になるのだそうだ。この事業について発表していただいた方は、やはり最初は大変なことばかりだったがたくさんの人と話せることや、この仕事でしか味わえないやりがいがあり、充実した生活を送っているとのことだ。

二つ目の仕事紹介では金属資源事業について聞いた。金属資源は日本にはほとんどなく、視野を世界に広げなければならないということだ。発表の担当者の方は、モザンビークの工場です仕事をしてあたそうだ。現地での生活は大変だったが非常にやりがいがあったということだ。外国人と直接商談することはストレスもたまつたが、一方で日本と海外の考え方の違いを知ることができたことなどの良いことも多かつたそうだ。

事業の説明を聞き、やはり日本国内だけにとどまっていはいけないと強く感じた。三菱商事の事業内容、一流の社員の皆さんはグローバルな視点で物事を考えて仕事をしている。それに遅れを取ってはいけないと思った。その後ディレクトフォースとのディスカッションを行った。



私たちの班に最初に来たディレクトフォースの方とは「日本の常識、世界のジョーシキ」というテーマでディスカッションをした。ディレクトフォースの方が私たちの質問に的確に答えてくれたことが印象に残った。

私たちの班では主に外国人とのコミュニケーションの取り方などについて討論した。

ディレクトフォースの方はロンドンで仕事をしているそうだ。彼もやはりコミュニケーションで苦労したと言っていた。

彼には、たくさんの質問、討論をしていただいたがそのなかでも特に印象に残った討論は、外国人とのコミュニケーションをする際に気をつけていたことは何かという討論だ。

海外では、自分の意見や物事は伝えようと強く意識する必要がある。と彼は言った。日本では会話する際に積極的に話さなくても伝わるだろうと考えられているが、海外ではそのような受け身の姿勢では相手にされない。特にビジネスの場合それが顕著で、商談が相手の都合の良い方向に持っていかれてしまうこともあるということだ。それを避けるためには相手と恥ずかしがらずに積極的に会話し、分からないことがあれば分かるまで何回でも聞く。このような一見基本的なことがとても重要であり、また日本人がなかなかできないことなのである。

先述した受け身ではいけないということに関連し、彼は日本国内で学校での授業を受け身でこなすだけでは良くないと言っていた。やはり自分から海外に留学してそこで生活してみることで自分が今まで気づかなかったことに気づくことができ、将来に向けて大きな力を得ることができるということだ。

二人目のディスカッションでは鮭鱒養殖事業の担当者の方と討論することができた。ディスカッションのテーマは「学生時代に培うチカラ」で、主に人間関係について討論した。

こんなに若い方なのによく三菱商事本社に入社することができたなあと思っていたが、やはりそれには理由があった。彼女の話は私が疑問に思っていたこと非常に分かりやすく、理路整然と説明してくれたのだ。

やはり人間関係において大切なのはコミュニケーションだ。と彼女は言った。人と話をするときは、相手を気遣って話をすることや相手の話を最後まで聞く ということ、そして相手の話に対して“No”は言わないなどコミュニケーションは、相手を思いやることが大切だということだ。

彼女は相手が分かりやすいように話をすることも大切だと言った。

説明してから結論を言うという順番では相手に伝わりにくく、コミュニケーションが上手いかなくなる。先に結論を言ってから説明をすることで相手に伝わりやすく円滑にコミュニケーションをとることができ、良い人間関係を築くことができるということだ。

また、彼女は仕事でよく海外に行くのだが、そのときの商談では英語が必至でそれには苦労しているとのことだ。もっと学生時代に英語の勉強をしておけば良かったと思っているので、英語の勉強は絶対やった方が良くと言われた。英語が嫌いだなどと言っている場合ではなくこれからの時代は英語を話すことができ、外国人と会話できるようになるべきなのだということだ。



三菱商事を見学し、お話を聞かせてもらい思ったことは、考え方が私が思っていたより遥かに進んでいて、日本国内だけを市場とする時代はもう終わり、今は世界中が市場であるのだ。そしてこれからはより英語を駆使して円滑にコミュニケーションをとることが個人個人に必要となるということに気づいた。私たちには英語が必要なのだ。英語が嫌いだなどと言っている暇はないと強く危機感を感じた。

全体を通して三菱商事でのディスカッションなどで重要なこととして話題となったのはコミュニケーションについてだった。それほどコミュニケーション能力は重要であり、我々に必要なものなのだ。そしてそれを身につけることが簡単ではないからこそ話題になったのだろう。

私は将来何の仕事をするかは明確に決まっていないが、どんな仕事に就いてもその能力は必要になるだろう。三菱商事のような大企業に就くとしたら尚更だ。私はその能力を高めるために英語をより一層努力したい。また、留学も積極的に参加したい。そして日本に貢献できるような人間になることができれば良いと思う。